

令和4年度に「観光まちづくり学部」新設

地域を見つめ、
地域を動かす
人材を育成

国学院大学は令和4年4月に観光まちづくり学部を新設する。新しい学部の設置は人間開発学部以来、13年ぶり。日本各地の歴史や文化を学び、持続可能な「まちづくり」とは何かを考え、地域に貢献できる人材の育成を目指す。

新学部は「地域を見つめ、地域を動かす」を理念として掲げ、日本の地域資源を生かすまちづくりを学ぶ。新学部設置準備室長・初代学部長(予定)の西村幸夫教授は「文学や歴史学、神道学などで研究成果を挙げている本学は、地域の資源を磨くという知見を持ち合わせている」と語る。

従来の観光は地域を「売り込む」ことに主眼が置かれてきた。しかし、観光まちづくり学部では「観光と交流」を軸に、地域資源の魅力を深掘りし、その資源を生かす「まちづくり」を学ぶ。

また、新学部は観光産業に就く人材輩出だけを目指した学びではなく、地域振興を担い、まちづくりに貢献できる人材を育てる。具体的には自治体の職員や都市計画の専門家、コンサルタント、NPO法人の職員などまちづくりに関わる多様な就職先も想定した学びを展開する。

教授陣には観光政策や都市計画、デザイン、データサイエンスなどの専門家を擁し、実践教育に主眼を置く。1学年の入学生定員は300人で、フィールドワークを多く取り入れ、文系・理系の枠を超えて多様な科目を選択できるようにする。

今はコロナ禍で人の移動が止まり、一時的に外国人観光客が減っている。西村教授は「居住地域の近くを訪れるマイクローリスムが浸透し、地域の歴史や文化、自然を見直す良い機会になっている。外国人観光客が戻ってきた時に、地域の魅力を伝える力を蓄える時期だ」と説明する。

学部として地域貢献も積極的に進める。学部開設と同時にたまプラーザキャンパスに「地域マネジメント研究センター」を設置。自治体や企業との共同研究を行う拠点として位置づけ、産学官連携を進める。

6〜9面に関連記事

みはるかすもの

秋の季語に「鮭風^{さけふう}」がある。サケが産卵のため遡上する頃に吹き荒れる風は、漁の目安だという。食卓を彩るはずの秋の恵みは今年、赤潮の発生や海水温の上昇が影響し、不漁が続く▼地球の異変は、消費者の懐にも響いている。今月は食材をはじめ商品の値上げが相次いだ。輸入小麦やマーガリン、コーヒーなどは、主要な生産地の天候不順や輸送コストの高騰が主因といわれる▼エネルギー価格の高騰は、世界で拡大中だ。ドイツやスペインなど欧州各国では近年、電源に占める割合で再生可能エネルギーによる発電が、火力発電を上回る。しかし天候不順が続く今年は、再生可能エネルギー

柔道男子日本代表・井上前監督が来校
佐柳理事長らを表敬

東京五輪で柔道男子日本代表を率いた井上康生監督(当時)が9月29日、佐柳正三理事長ら役員を表敬訪問した。井上監督は日本男子が史上初の金メダル無しに終わった2012年ロンドン五輪後に就任。科学的な戦術分析の導入など強化改革を行い、東京五輪では史上最多となる5個の金メダル獲得に導いた。国学院大学は、東京五輪に向けた日本代表チームの練習会場としてたまプラーザキャンパス柔道場を提供し、本学柔道部のスタッフ、部員らが協力していた。

井上監督は「東京五輪では、選手たちが死力を尽くして頑張ってくれた。コロナ禍で練習環境が整わない中、日本代表チームは練習場の確保に苦勞した。その中で国学院大学と柔道部の協力は大変ありがたかった。全選手、コーチが同じ思いだ」とあいさつ。

佐柳理事長は「手腕を発揮され大変な成果を挙げたことを、法人・大学を代表してお祝い申し上げます。本学と柔道界は歴史的にも、柔道草創期以来大いに関わりがある。今後も柔道界の発展に協力していきたい」と応じた。

前列左から佐柳理事長、井上前監督、針本学長、後列左から坂本柔道部監督、大村常務理事、笹生柔道部部长、川上柔道部コーチ

東京五輪・パラリンピックに関連した学内イベントの詳細、卒業生インタビューは4・5面



検温などを済ませて入館し展示資料を熱心に見学する来場者

国学院大学博物館

『日本書紀』成立1300年 1年越しで特別展

特別展『日本書紀』撰録1300年―神と人とを結ぶ書物―が9月16日、国学院大学博物館で開幕した。この特別展は、令和2年が養老4（720）年の『日本書紀』成立から1300年の節目を迎えることから、昨年企画されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大で1年越しでの開催となった。

『日本書紀』は日本最初の正史として重視されるとともに、神道における重要な古典としても、多くの人々に受け継がれてきた。特別展では、書写年がわかる神代巻として最古の嘉禎本『日本書紀』（本学図書館所蔵）をはじめ神宮文庫、熱田神宮、三嶋大社、本学が所蔵する重要文化財5点を含む貴重な古写本、注釈書を展示。1300年にわたって読み継がれ、書き継がれてきた『日本書紀』の歴史をたどっている。

このほか、大正9（1920）年に本学の母体である皇典講究所が開催した『日本書紀撰進千二百年記念会』から百年の節目であることから、当時の展示目録などで本学の研究史の一端を紹介する。企画を担当した渡邊卓・研究開発推進機構准教授は「江戸時代に登場した国学者は『日本書紀』を研究し、それが本学の研究史に繋がっている。今回展示の書物には、天皇や神官、僧侶、国学者による自筆が多く、その書きぶりからも歴史を感じることが出来るのでは」と解説する。特別展の会期は11月13日まで。展示紹介動画を本学博物館のYouTubeチャンネル「オンラインミュージアム」で配信中（QRコード）。



後期授業を開始
7割の学生がワクチン接種と推定

令和3年度の後期授業が9月20日から始まった。後期授業の実施にあたって国学院大学は、「令和3年度授業実施方針」を継続。おおむね50人未満の授業は対面とし、50人以上の授業はオンラインでのライブ配信またはオンデマンドの遠隔で実施する。

対面授業を行う教室では窓やドアを開けて換気し、座席の間隔をあけるなどの対策が取られている。キャンパス内の自習スペースでは、多くの学生がパソコンやタブレット端末を置き、遠隔授業に参加する姿が見られた。

本学では、後期授業開始までに新型コロナウイルスの抗体ができるようワクチン接種を進め、7月にたまプラーザキャンパスで地域の医療機関と連携してのワクチン接種を、8月にかけては渋谷キャンパスで職域接種を実施した。

8月末から実施した構成員を対象としたアンケート調査では、学生の約70%（推定値）、教員の約90%（同）が2回目のワクチン接種を完了したことが見込まれる（回答率は約33%）。

本学では、学生、教職員らに引き続き基本的な感染対策の徹底を呼びかけている。



9月卒業 令和3年度は72人

国学院大学の令和3年度9月卒業の72人が、9月30日付で確定した。

卒業証書授与は9月29日（経済学部は25日）、学部ごとに分かれて行われた。文学部の証書授与では、参加した卒業生1人ずつに矢部健太郎学部長が証書を授与し「コロナ禍は全世界が緊急事態となる歴史上まれな危機。その中での学生生活は苦労もあったと思うが、社会に出て困難に直面したときに大学生活で培った知見や経験を生かし活躍してほしい」とあいさつ。卒業生たちは真剣な表情で耳を傾けた＝写真。

卒業期は130期で、卒業式典は令和4年3月20日に行われる予定。所属学部学科別の卒業生数は次の通り。

- ◎文学部＝12人▷哲2人▷史5人▷日本文1人▷中国文2人▷外国語文化2人
- ◎経済学部＝23人▷経済11人▷経済ネットワーク7人▷経営5人
- ◎法学部＝26人▶法律専攻19人▶法律専門職専攻4人▶政治専攻3人
- ◎神道文化学部＝▷神道文化7人
- ◎人間開発学部＝4人▷初等教育1人▷健康体育1人▷子ども支援2人



学問ノ道

第37回

●中学生の多くが教科書で出会った

「心の小径」の金田一京助



金田一京助

アイヌ語調査に彼地へ赴いた若い金田一京助（1882～1971）がアイヌの子どもたちの前で絵を描いて「何？」と聞いてその呼び名を収集した回想エッセーが「心の小径」である。その学習に必須の国語辞典も、金田一京助編『明解国語辞典』（三省堂）だった。昭和20年代半ばからの三十数年、金田一を知らない日本人はいなかった。

東京帝国大学文科大学言語学科卒業の翌年、明治41年国学院大学講師、大正11年教授、昭和3年東京帝国大学助教授、10年「ユーカラノ語法特ニソノ動詞ニ就テ」で文学博士号取得、16年教授、18年

か、将棋とお豆腐とが大好きとのこと、広く知られていた。昭和44、5年のころ、70年安保闘争の学生運動激しいなか、国語学研究室助手の背に負われて中庭を横切られるお姿があった。その何年か、杉並のお宅から、本郷の東京大学の見えるマンションに移っておられたが、長いご研究のお疲れがお身体を蝕んでいた。その幾晩か、国学院大学国語学研究室の若い教員、助手数人が近くの小ホテルに宿泊して侍り、ご臨終のお見送りをさせていただいた。今年度、先生の題字をいただいた国学院大学国語研究会の機関紙「国語研究」は、第85号となろうとしている。

名誉教授 中村幸弘



金田一京助の講義風景（昭和30年代）【校史・学術資産研究センター所蔵】

令和3年度 指定寄付者一覧 (敬称略)

令和3年4月1日～9月30日 (単位:円)

申込者	寄付目的	金額	収納日
小川 龍成	学生・生徒等の活動支援 (硬式野球部)	1,200,000	令和3年4月20日
矢澤 敏司	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和3年4月21日
匿名	学生・生徒等の奨学基金	289,200	令和3年4月26日
国学院大学院友会群馬県支部高校部会 部会長 八木原 賢	学生・生徒等の奨学基金	272,475	令和3年4月28日
高山 充	学生・生徒等の活動支援	10,000	令和3年4月30日
關橋 淳	学生・生徒等の活動支援 (硬式野球部)	1,000	令和3年4月30日
		1,000	令和3年5月31日
		1,000	令和3年6月30日
		1,000	令和3年7月30日
		1,000	令和3年8月31日
		1,000	令和3年9月30日
木下 智	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和3年5月12日
匿名	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和3年5月12日
橋本 恵市郎	学生・生徒等の活動支援 (国学院大学北海道短期大学部)	500,000	令和3年5月17日
	施設・設備充実支援 (国学院幼稚園)	500,000	令和3年5月31日
渡辺 正一	学生・生徒等の活動支援	50,000	令和3年5月17日
大成建設株式会社 代表取締役社長 相川 善郎	学生・生徒等の活動支援 (硬式野球部)	30,000	令和3年5月17日
松井建設株式会社 代表取締役 松井 隆弘	学生・生徒等の活動支援	100,000	令和3年5月17日
臼杵 千枝子	学生・生徒等の活動支援 (箱根駅伝、東都大学野球)	150,000	令和3年5月31日
斉藤 雄仁	学生・生徒等の活動支援 (モーターボート水上スキー部)	5,000	令和3年6月15日
戸川 信義	学生・生徒等の活動支援 (サッカー部)	100,000	令和3年6月30日
服部 謙太郎	教育・研究振興支援	5,000	令和3年6月30日
喜多山 健二	学生・生徒等の奨学基金	100,000	令和3年6月30日
福田 光一	学生・生徒等の活動支援 (バスケットボール部)	5,000	令和3年6月30日
荒井 康一郎	学生・生徒等の活動支援 (バスケットボール部)	5,000	令和3年6月30日
株式会社トップコート 代表取締役 植松 正	学生・生徒等の奨学基金	500,000	令和3年6月30日
新井 さきほ	学生・生徒等の奨学基金	50,000	令和3年7月19日
牧内 りずむ	学生・生徒等の奨学基金	5,000	令和3年7月30日
一般財団法人国学院大学院友会 会長 吉田 茂穂	教育・研究振興支援 (母校所蔵貴重資料デジタル化)	100,000	令和3年8月5日
	学生・生徒等の活動支援 (第25回高校生創作コンテスト)	100,000	令和3年9月15日
	学生・生徒等の活動支援 (第17回地域の伝承文化に学ぶコンテスト)	100,000	令和3年9月15日
株式会社アルク 代表取締役 實川 利光	学生・生徒等の奨学基金	60,000	令和3年8月20日
	学生・生徒等の活動支援 (卓球部)	5,000	令和3年9月15日
坂本 眞佐人	学生・生徒等の活動支援 (ソフトテニス部)	5,000	令和3年9月15日
	教育・研究振興支援 (考古学研究室)	100,000	令和3年9月24日
国学院大学院友経済会 会長 大塚 勤	学生・生徒等の活動支援 (大規模災害被災学生支援)	100,000	令和3年9月27日
国学院大学駅伝応援の会 会長 坂本 眞佐人	学生・生徒等の活動支援 (駅伝支援金)	5,464,691	令和3年9月30日

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。

令和3年4月から9月まで別表の通り、多方面の方々からご寄付をたまわりました。ここにご芳名を掲載し、重ねて深甚の

謝意を表します。
本法人に対するご寄付は、専用用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。詳細は10面をご参照ください。
(総務部総務課)

「指定寄付金」ご芳名

認定留学に新たな奨学金制度

国学院大学に在籍しながら海外の大学に1学期間もしくは2学期間(1年間)留学し、留学先の大学で修得した単位を、本学の単位として認定する認定留学制度がある。同制度を利用する学生に対する新たな奨学金制度が制定された。制度の施行は10月1日。

▶国学院大学認定留学奨学金制度＝認定留學生に対し奨学金を給付することによって、認定留学を奨励することが目的。支給額は1学期間に20万円(最大2学期間)。

▶国学院大学認定留学天翔奨学金制度＝認定留學生のうち、特に優秀と認められた者に対し、奨学金を給付し学業を奨励することが目的。支給額は40万円。

出願資格や認定留学制度については国際交流課に問い合わせを。

交換留学生とオンラインで交流

海外の協定校からの交換留学生と国学院大学の学生が交流する「インターナショナル・コーヒーアワー」が9月29日、ビデオ会議システム「Zoom」を使って行われた。

例年であれば9月に来日し、キャンパス内で学修を深める予定の交換留学生たち。コロナ禍の影響で入国の見通しが立たず、自国からオンラインでの学修が続いている。この日のコーヒーアワーには、イギリス、スペイン、マレーシア、ベトナムの学生8人と約20人の本学学生が参加した＝写真。

参加した留学生から「(大学周辺で)おすすめの飲食店は?」などと本学学生に質問が飛び出すと、「うどんやラーメンの美味しい店がある」と応じ、互いに

日本での生活や交流に思いをはせている様子だった。コーヒーアワーは、12月まで1カ月に1回行われる予定。在学生の参加に関する問い合わせは国際交流課まで。



鈴木靖民名誉教授に横浜文化賞

横浜市は9月30日、芸術や教育、スポーツ振興などの発展に貢献した地元ゆかりの個人・団体に贈る今年度の横浜文化賞と、同賞文化・芸術奨励賞の受賞者を発表した。

このうち、横浜文化賞(文化・芸術部門〈学術分野〉)で前・横浜市歴史博物館館長の鈴木靖民名誉教授が選ばれた。

鈴木名誉教授は日本古代史・東アジア古代史が専門。今年3月まで約10年間にわたって横浜市歴史博物館館長を務め、横浜の歴史の魅力発信や、これまで研究が薄かった横浜開港以前の歴史に光をあてた功績などが評価された。

贈呈式と記念コンサートは11月22日、関内ホール(横浜市中区)で開かれる。

教職員人事

〔採用〕

大学事務局◇専任▷麻生航太(総合企画部広報課〔試用期間〕)

令和3年10月1日付

新入職員紹介

10月1日付で着任した専任職員のプロフィールを紹介する。丸数字は①略歴②抱負。

大学事務局

◆総合企画部広報課(試用期間)

麻生航太(あそう・こうた)

①平成31年3月国学院大学人間開発学部卒業

②母校である本学の職員として奉職するご縁をいただき、身の引き締まる思いです。新学部設置を迎えた大学のさらなる発展に貢献し、学生時代を導いていただいた教職員の皆様のように、学生の「標」となる職員を目指して日々努力を重ねていく所存です。



紺井博則名誉教授 逝去

紺井博則名誉教授が7月5日に逝去。71歳。葬儀は近親者により既に執り行われた。

紺井氏は昭和24年生まれ。48年北海道大学経済学部卒業。53年同大学院経済学研究科単位取得退学。北海道大学経済学部助手などを経て55年国学院大学経済学部専任講師。57年助教授、63年教授。令和2年定年退職、名誉教授。在職中は経済学部長や大学院経済学研究科委員長、図書館長などを歴任した。

専門は国際金融論。著書に『グローバル経済と債務累積の構造』(晃洋書房)、『複合危機—ゆれるグローバル経済』(日本経済評論社)がある。



五輪と科学 研究者が経験したものは 人間開発学部5教員がウェビナーで語る



千野謙太郎准教授



町田樹助教



司会・林貢一郎教授

コロナ禍という異例の事態の中での東京五輪・パラリンピックは開催の是非を含めて注目されたものの、大きなトラブルもなく開幕を迎えた。その興奮も冷めやらぬ中、来冬には北京冬季五輪・パラリンピックの開幕が迫る。国学院大学人間開発学部地域ヘルスプロモーションセンター主催のトークウェビナー「私たちがオリンピックで経験したこと」が10月6日、ビデオ会議システム「Zoom」を通じて開催され、五輪出場経験や選手をサポートした経歴をもつ同学部所属教員によるトークに約170人が耳を傾けた。

今回のトークウェビナーでは、5人の教員がメディアなどで語られることのない五輪の舞台裏や、強化などに携わって感じた経験をもとに掘り下げ、スポーツや健康について学ぶことへの興味・関心を高めてもらうのが狙い。同学部の林貢一郎教授が司会を務め、各教員の実体験に基づくプレゼンテーションの後、「オリンピックに関わる活動で得たものとは?」「スポーツ科学の社会への貢献」の2テーマに絞ってディスカッションが行われた。

発言の内容は以下の通り(発言順、名前の後のカッコ内は五輪との関わり)。

●プレゼンテーション

町田樹助教(オリンピック)

「フィギュアスケート代表としてソチ冬季五輪に出場したが、選手時代に競技者の労働環境やアスリートの権利などの問題に直面した。その後、政治・経済をはじめとするあらゆる学問の複合体であるスポーツマネジメントに出会い、競技引退後に大学院で学んだ。華やかなスポーツには課題も多いので、スポーツ科学の力で解決に繋げたい」

富田一誠教授(医学サポート)

「長年、野球の侍ジャパンを医学面でサポートしてきたが、選手・チームのコンディショニングに影響する要素を想定し、それに備えることの大切さを感じている。今大会は新型コロナウイルスや熱中症対策などで苦労したが、多職種スタッフと協力し合っ



富田一誠教授



神事努准教授



渡辺啓太准教授

●ディスカッション

テーマ1「オリンピックに関わる活動で得たものとは?」

町田助教「競技者としての経験で良い問いを得ることができた。その問いに取り組んでいくことが今後の課題だ。問題意識を大切にすることは学生アスリートの学業にも通じる」
富田教授「プロとアマの2つの球界を結びつけた野球協議会の存在は大きい。子どもたちの運動障害に取り組み横の繋がりもできた」
渡辺准教授「日本で初めての職業アナリストとして、当初は存在が薄かった。問われたことにプラスアルファの答えを返すことで選手の成長をサポートし、信頼を得ることができた」
神事准教授「多くのアスリートとの触れ合いが財産となっている。『天才』と呼ばれる選手の泥臭い努力も目の当たりにできた」

テーマ2「スポーツ科学の社会への貢献」

千野准教授「さまざまな国際大会でトップアスリートをサポートし、それを通じて日本人としての意識が高まった」
町田助教「今大会はアスリート以外の『社会』の不具合が浮き彫りになった。スポーツ文化を健全に伝承させるためにも研究のフィードバックが必要だ」





東京パラ銀メダルを支えた要因

スカイランナー 星野和昭さん(平16卒・112期中文)

唐澤選手が陸上を始めてわずか5年で東京パラリンピック男子5000m(T11)の銀メダルを獲得できたのは、本人の努力に加え2つの要因に集約できる。一つは、多くの人の協力を得られ、練習環境を整えられたこと。おかげで、日々のトレーニングを継続できた。地域の協力無くしては難しいことだ。もう一つは、トレーニングの目

的と効果を丹念に説明し、唐澤選手がしっかりと理解して練習に取り組んでくれたことだ。トレーニングの基本に徹したということでもある。これには私のこれまでの選手、指導者としての経験を生かすことができた。練習環境の充実も、前橋市の鍼灸マッサージ院「からだの地図帳」の清野衣里子院長の尽力によ

るものだ。私も、平成28年に清野院長から「インターンをしている唐澤選手がパラを目指し陸上を始めた」と言う。伴走兼コーチになつてくれないか」と相談され、彼と出会った。清野院長の呼びかけで伴走の協力者も徐々に増え、今では三、四十人ほどで練習をサポートしている。皆が唐澤選手を結束して応援しようという気持ちで集まってくれ、チームとしていい形の支援体制が出来上がった。

メダリストの指導に生きた大学時代の経験

指導を引き受けた時に、唐澤選手の走りを見て、練習をすればタ

イムを一定レベルまで伸ばせる確信はあった。基礎体力づくりを徹底し、併せてトレーニングのたびに、目的と効果を細かく説明する手法を取り入れた。実はこれは私が大学時代に陸上競技部で受けた指導法の一つだった。大学1年次にチームは箱根駅伝(第77回大会)への初出場を果たし、3年次にも出場した。当時の森田桂監督は、そのトレーニングの目的や効果を理論的に説明してくれ、なるほどと納得することが何度もあった。人はただ指示されるよりも、頭の中で納得していれば練習にも身が入る。この大学時代の実体験を唐澤選手の指導に生かした。

パラリンピックへの挑戦で感じた障がい者スポーツの課題

日本では、選手もガイドランナーも本業があり、仕事後に練習している。継続した練習には多くの協力者が必要だが、ボランティアを集めるのは簡単なことではなく、障がい者がスポーツを始めやすい環境とは言えない。世界では、選手もガイドランナーもプロとして成立している国があり、元オリンピックがサポートする例も多いと聞く。この流れは2024年パリ大会に向け加速するだろう。ボランティアだけのサポートは、選手が一定レベルになると限界が出てくる。一つ一つの練習が繋がるよう、栄養面など生活も含めたサポートが必要になり、ボランティアだけでは非常に困難だ。東京大会をきっかけに、健常者と同じようにパラアスリートとガイドランナーがプロや実業団選手など職業として成立し、世界にチャレンジしやすい環境に変わっていくことを願う。

スポーツを核に地域活性化の夢

今後はスカイランニングの選手

として大会に出場するほか、同競技の普及促進や、それによる地域活性化への取り組みを本業にしつつ、パリ大会に向け唐澤選手の指導も行うという2軸で活動の幅を広げていきたい。出身地の群馬県片品村は、スカイランニングをはじめとした野外スポーツやレジャ―を通年で楽しめる所として高い

周囲のサポートに感謝を

群馬県社会福祉事業団 唐澤剣也選手

2016年のリオジャネイロ大会に触発され本格的に競技を始めた。5年間で東京大会の銀メダル獲得まで到達できたのは、周囲に協力を呼びかけ、サポート体制を整えてくれた清野院長、練習や試合で共に走ってくれたガイドランナーの方々、的確な指導をしてくれた星野さんら周囲の協力者のおかげで、感謝してもしきれない思いだ。

星野さんは、私に合った練習を考えてくれ、とくに最初の体の基礎づくりに重点を置いた指導は、その後の土台となった。経験者ならではののだと感じている。5000m決勝レースでは「ここまで来た」とわくわくした。中盤まで我慢してペースを守り、最後に力を出し切るという教え通りの戦略で臨んだが、今までやってきたことが間違っていなかったと証明できたと思う。

誰もがスポーツを楽しむ社会を

3年後のパリ大会では金メダルを目指したい。今大会の1500m、5000mで金メダルを獲得したブラジルの選手とは力に歴然とした差があった。今後の目標は5000mで14分台を出し、この選手と勝負ができるようになることだ。

日本のパラ陸上視覚障がい者ク



唐澤選手の銀メダル。種目などが点字で記されている

ラスでは、若い選手が増えずにいる。視覚障がい者はガイドランナーのサポートが無ければ走れず、私がそうだったように走る機会がほとんどないため、裾野が広がりにくい。将来的には公園での伴走体験など、視覚障がいがある子どもたちに走る楽しさを伝えたい。日本の障がい者スポーツにはまだ課題が多いが、私がパラリンピックなど国際舞台で活躍することでも、もっと多くの健常者がパラスポーツに注目してもらえよう、競技を続けたい。そして、少しずつでもガイドランナーに協力してくれる人が増え、視覚障がいがある子どもたちが、もっと気軽に陸上にチャレンジできる社会が実現できたらうれしく思う。(談)

銀メダルを手に笑顔を見せる唐澤選手(右)と星野さん



ほしの・かずあき 平成16年国学院大学文学部中国文学科卒業。在学中は陸上競技部に所属し、卒業後は陸上自衛隊を経て上武大学駅伝部コーチに就任し、同大を4年連続で箱根駅伝出場に導く一翼を担った。その後、28年から唐澤選手の指導を任せられ、今夏の東京パラで同選手を銀メダル獲得に導き、見事に大役を果たした。現役選手として活動しているスカイランニングでは27年のアジア選手権で3位に入賞し、28年の世界選手権には日本代表として出場。現在は競技活動の傍らイベントプロデューサーとして、出身地である群馬県片品村をスカイランニングなど山岳競技や野外レジャーの一大拠点にすべくさまざまな新事業を立案中。唐澤選手の指導は今後も継続し、3年後のパリパラリンピックでの金メダル獲得を目指す。

からさわ・けんや 平成6年生まれ。群馬県渋川市出身。東京パラリンピック陸上男子5000m(T11)で銀メダル、同1500mで4位。そのほか平成30(2018)年アジアパラリンピック陸上男子5000m(同)で金メダル、同1500mで銅メダルも獲得。5000mでは今年5月に15分9秒94と、17年ぶりに世界記録を更新した。先天性の網膜剥離により生まれながらにして弱視で、小学4年で視力を失う。中学卒業時に光覚を失い、全盲となった。群馬県社会福祉事業団に所属し、群馬県立点字図書館で働いている。トレーニング拠点は前橋市。周囲の協力による「からけん会」と呼ばれるサポート組織もある。

観光まちづくり学部観光まちづくり学科

メインキャンパス たまプラーザ

入 学 定 員 300人

観光まちづくり学部初代学部長（予定）・西村幸夫教授に聞く

地域主体の観光のあり方を探求

令和4年度に国学院大学に新設される観光まちづくり学部。最大の特徴は地域を主体とした観光のあり方を探求し、地域振興を担える人材の育成を目指す点だ。新学部設置準備室長・初代学部長（予定）の西村幸夫教授は「国学院大学の建学の精神と観光まちづくりは深い結び付きがある」と話す。

日本各地で少子高齢化が進み、過疎化が深刻になっている。農山漁村地域や地方都市では人口減少や後継者不足で、集落の存続が困難になったり、地場産業の衰退が進んだりしている。

こうした社会課題を解決するため、新学部では「観光と交流」を軸にしたまちづくりを学ぶ。有名

観光地など自然と人が集まる資源だけではなく、地域に昔からある祭りや文化などに光を当て、地域資源の掘り起こしを行う。従来の地域を売り込む観光から、埋もれた資源を深掘りし、まちづくりに生かすと同時に地元に住む人も暮らしやすいまちのあり方とは何かを考える。

西村教授は「地域が伝承してきた祭りや、文化、歴史を語る人が増えると、地域コミュニティの活性化につながる」と話す。新学部ではこうした新しいまちづくりを牽引する人材育成を目指す。新学部の理念や設置の意義、科目の特徴などを西村教授に聞いた。

にしむら・ゆきお 新学部設置準備室長・教授。昭和27年生まれ。博士（工学）。東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院修了。東京大学教授、同副学長、マサチューセッツ工科大学客員研究員、コロンビア大学客員研究員、フランス社会科学高等研究院客員教授、国際記念物遺跡会議（ICOMOS）副会長などを歴任。専門は、都市保全計画、景観計画、歴史まちづくり、歴史的環境保全。

第2回観光まちづくりフォーラム
～持続可能な地域の実現に向けて～を開催

新型コロナの感染拡大は観光のみならず、地域の産業や生活、文化にも大きな影響を及ぼしています。観光をキーとしながらも、地域に軸足を置いて見つめてみることで、未来に向けた持続可能な地域づくりの可能性を探ります。本学が考える「観光まちづくり」とは何か、持続可能な地域づくりに観光がどのように関わっていくのかを議論します。

開催日 11月8日(月)15時～18時（オンライン配信）
申込 ホームページ（QRコード）からご確認ください



8・9面 観光まちづくり学部教員の“印象にのこるまち”

詳細は本学HP「国学院大学メディア」に掲載



1 なぜ国学院に「観光まちづくり学部」なのか

日本文化の研究実績、
地域資源の発見に生かす

「なぜ国学院に観光まちづくり学部を設置するのか」。それは国学院大学の建学の精神とも深く関わっている。

本学の設立は明治時代。当時、明治維新で欧米の思想や文化の導入が急速に進む中で、日本古来の思想、文物が顧みられない状態になってしまっていた。そこで、単に欧米の模倣ではなく、思想や文化、体制も日本の歴史や民族性に基づいたものでなければならぬと、明治15（1882）年、国学院大学の母体である、皇典講究所が創立された。

こうした歴史的背景で設立された国学院大学は文学や歴史学、神道学、民俗学で研究実績があり、「多角的に日本を学ぶ」ということを重視してきた。

西村教授は「単なる観光学部なら『なぜ国学院大学で？』となるだろう。だが、地域に軸足をおく観光まちづくりとは、地域の宝を磨くとい

2 地域を見つめるとは

マイクロツーリズム、
魅力再発見の絶好の機会

新学部の教育の柱は「地域の魅力を見つめ、地域を動かしていくこと。地域の観光資源の質を向上させ、主体的にまちづくりを進める人材を育てる。

日本が観光立国をうたい、インバウンド施策に力を入れて外国人観光客が訪れるようになって20年ほど。平成30年には訪日外国人客が初めて3千万人を突破した。

しかし、新型コロナウイルスが世界的に流行し、人の移動が止まってしまった。代わりにコロナ禍で広がったのが、近場を訪れるマイクロツーリズムだ。西村教授は「自分たちが住む地域の歴史や文化を学び深掘りする絶好の機会になっている。外国人観光客が戻ってきた時に、自分のまちの歴史や文化を語ることができる人が増え、コロナ前よりも魅力的な国に変わるだ

ろう」と予測する。修学旅行でマイクロツーリズムを行う学校も増えているという。マイクロツーリズムで期待される「地域の文化の深掘り」とは具体的にどのようなことだろうか。西村教授は例として、日本食を挙げる。日本各地の風土や歴史が育んだ郷土料理はまさに地域独自の文化。山海や春夏秋冬の魅力ある素材で手間をかけて作られた料理が気軽に食べられる国は、世界でも類を見ない。日本食を目当てに日本を訪れる観光客も多いという。

「自分たちが当たり前と思っていることが、実は素晴らしい可能性を秘めている。地域の文化を深掘りすることは、当たり前だと思っていたことが実は特別な魅力だと気付くきっかけになる」（西村教授）

3 観光まちづくり学部の教育と地域貢献

地域連携進めるセンター設置
共同研究の中枢に

観光まちづくり学部は少人数制でフィールドワークを数多く取り入れることを特徴とする。1学年の入学生定員は300人、授業は少人数のグループに分かれ、チームで課題に取り組む。

特徴の一つが文系、理系の枠を越えた学びを目指すことだ。西村教授は「私自身は理系だが、都市計画は地域の歴史を理解する必要がある。まちづくりは文系、理系の両方の学びが重要になる」と語る。その上で「これからのまちづくりには統計やデータを効果的に使い、公共政策や都市計画などを俯瞰できる人材が求められている」と説明する。新学部では、文理の科目を柔軟に選択できるカリキュラムを用意する。また、デジタル化に対応できる人材育成にも力を入れる。

教授陣の専門領域も幅広い。観光政策や都市計画など実践の場で活躍してきた教員はもちろん、デザイン、データサイエンスの専門家も擁する。観光産業に就く人材輩出だけを目標とした学びではなく、地域振興を担い、まちづくりに貢献できる人材を育てる。具体的には自治体の職員や都市計画の専門家、コンサルタント、NPO法人の職員

などの広くまちづくりに関わる就職先を想定する。指定科目を選択すれば学芸員の資格取得も可能だ。

具体的な科目としては①社会…地域を取り巻く社会課題や構造②資源…歴史や文化、自然などの資源のあり方や保全管理③政策・計画…地域の具体的な政策や計画④交流・産業…地域を主体とした域内外の交流のあり方や関連産業がもたらす経済効果」の4つを柱に幅広く学ぶ。1年生では導入部分を、2、3年生ではより実践的な学びを目指す。全学年を通してさまざまな地域を訪れ、学生の視点で調査をしながら課題を探り、解決策を考える。

また、人材育成だけではなく、地域貢献を目的に設置するが「地域マネジメント研究センター」だ。たまプラーザキャンパスに設置し、自治体や企業との共同研究の場にする。西村教授は「新学部の教授陣はこれまで全国の自治体と共同研究を進めてきた専門家がほとんど。今までの関係性を生かして、新たな共同研究に取り組み、地域に貢献したい」と話している。



観光まちづくり学部教員の “印象にのこるまち”

各地の観光まちづくりに携わってきた教員が、“印象にのこるまち”を紹介します。

策の根幹を理解できるよう、体系や制度についてまず学びます。一方で国民・住民に主権があり、政策形成にも主権者の多様な参加が試みられており、実際の公共政策形成プロセスや制度の運用、地域づくりで、主権者自身が試みる政策形成や事業展開の事例も順にみていきます。そうしたさまざまな先進事例を検討することの中から、これからの公共政策のあり方について考えます。

略歴 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了、熊本大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程修了。博士（公共政策学）。東京都庁、由布院観光総合事務所事務局長、愛媛大学法文学部准教授を経て現職。

石垣悟（いしがき・さとる）准教授

印象にのこるまち ▶ 愛媛県伊方町

佐田岬半島に位置する小さな町です。原発を抱え、過疎も進んでいますが、漁業やみかん栽培などを生業とし、盆や正月、祭りの時は浦々も活気づきます。特に多くの人が帰省する盆は、ご先祖様と交流する独特な民俗行事が多く、一帯は不思議な雰囲気包まれます。町の博物館ではそうした町の姿をいつでも感じ取ることができます。

こんな授業を担当 博物館概論

博物館の基本的な活動や役割、登場の歴史などについて学びます。日本には博物館が6000館弱あるといわれますが、全館が十分な役割を果たしているわけではありません。博物館の抱える現実的課題も紹介し、併せてエコミュージアムに代表されるような緩やかな繋がりをもつ地域社会の拠点としての可能性についても検討します。単なる博物館論ではなく、観光まちづくりの現場で機能する博物館を強く意識した講義を行う予定です。

略歴 筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科退学。新潟県立歴史博物館学芸課研究員、文化庁伝統文化課（文化財第一課）文化財調査官、東京家政学院大学現代生活学部准教授を経て現職。

石山千代（いしやま・ちよ）准教授

印象にのこるまち ▶ サンティアゴ・デ・コンボステラ巡礼路沿いの道・集落・都市（スペイン北部）

約800kmにわたる巡礼路を自分ならではのスタイルで歩くため・支えるため、世界中から多くの人々が訪れています。初めて世界遺産に登録された道なので沿道風景の美しさも魅力ですが、“Buen Camino!（よい巡礼を！）”という挨拶と笑顔が飛び交い、道案内の可愛い矢印があちらこちらで歓迎してくれて、目にも足にも心にも優しい“まち”と“みち”です。

こんな授業を担当 地域デザイン論

有限な地域空間において、住民や観光客をはじめ多様な主体の幸せな共存を目指して、多層的スケール（建物・敷地・街区・地区・都市・広域）で空間的・社会的デザインとプロセスデザインを考えるための基本的な見方を、まず学びます。そして、地域を取り巻く環境も人々の意識も激動期にある現代において、行政の縦割りや広域化などの弊害を越えて、地に足の着いた地域主体のデザインを行うためのアプローチと技術を修得します。

略歴 東京大学工学部卒業、同大学院工学研究科修了後、（公財）日本交通公社でのコンサルタント経験を経て、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。同特任研究員、東大まちづくり大学院非常勤講師を経て現職。博士（工学）。

嵩和雄（かさみ・かずお）准教授

印象にのこるまち ▶ 熊本県小国町

大学院時代の調査で訪れ、そのまま移住し約9年間暮らしました。各種都市農村交流事業を企画・実践し東京に戻りましたが、顔が見える繋がりはまだ続いて、家族ぐるみの付き合いをしています。最近ではこのような地方との関わりを持つ人を「関係人口」と呼びますが、学生にもこうした地域と関わる機会を作りたいと思います。

こんな授業を担当 田園回帰論

都会から農山漁村への移住という物理的移動だけでなく、都市住民が地方へ向けるまなざしの変化も含めて、田園回帰と呼びます。こうした動きは日本だけでなく欧米でも見られるようになりました。講義では、こうした社会の変容と価値観の変容、また近年通信インフラやSNSの発達などの背景を理解しながら、空き家の利活用や「起業」「継業」なども全国各地の取り組みから田園回帰の現状と課題を学んでいきます。

略歴 東洋大学大学院工学研究科博士後期課程単位取得退学。（一財）学びやの里研究員、NPO法人ふるさと回帰支援センター副事務局長を経て現職。

金今善（きむ・くんそん）准教授

印象にのこるまち ▶ 柳谷（鹿児島県鹿屋市串良町上小原にある集落、通称「やねだん」）

柳谷は、いわゆる限界集落で、他の地域にはない際立った資源や人材があったわけでもないが、集落独自の財源づくりに挑戦し、「カライモ」や「やねだん焼酎」、土着菌や手打ちそばなど、次々とブランドが生まれ、地域の全高齢者に1万円のボーナスが配られるほど、行政に頼らない「元気な村」になっています。

こんな授業を担当 地方自治概論

少子高齢化、高度情報化、新型コロナの感染拡大など、現在国内外で起っている諸変化は、私たちの暮らす地域社会においてさまざまな課題を生み出し、自治体はそれらの対応に迫られています。この科目では、自治体とは何か、なぜ地方自治が求められるのか、という疑問から出発し、現在日本の地方自治を支えている制度的な枠組みや考え方、それが実際にどう機能しているか、どんな問題を抱えているかなど地方自治の実態について検討します。

略歴 東京都立大学大学院社会科学研究所博士課程修了。博士（政治学）。東京都立大学法学部助教、（一財）行政管理研究センター研究員、本学兼任講師などを経て現職。

清野隆（せいの・たかし）准教授

印象にのこるまち ▶ イタリア・ポローニャ

大学院生時に1年間過ごしたまちです。イタリアで初めての大学が設立されたまちで、自由と改革の気風が強く、社会を改善する新しい試みがたくさん見られます。また、古い町並みも魅力的で今年、世界文化遺産に登録されました。

こんな授業を担当 まちづくり論

まちの魅力や課題を発見し、そこに住み、働き、訪れる人々が連携・協働しながら、まちの社会や環境を改善する取り組みであるまちづくりについて総合的に学びます。まちづくりの意義や背景を確認した上で、まちづくりの方法や技術を理論的、かつ実践的に学んで、まちづくりに取り組むための素養を身につけることを目標としています。

略歴 東京工業大学大学院修了。博士（工学）。立教大学観光学部助教、江戸川大学社会学部講師、准教授を経て現職。

大門創（だいもん・はじめ）准教授

印象にのこるまち ▶ フランス・ストラスブール

ストラスブールは、欧州評議会本部があるまちであり、人と環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。もともと幹線道路でまちの中心部が分断されていたのですが、20年ほどかけて自動車流入を抑制し、人・自転車・トラム（路面電車）が中心のまちになり、にぎわいを取り戻しました。日本でも同様の取り組みが進められています。

こんな授業を担当 都市と地域の交通

観光とは、余暇時間の中で日常生活圏を離れて行う自主的な活動であり、そこには必ず「移動」を伴います。また地域では、「住む場所」「働き学ぶ場所」「憩う場所」がありそれらを

繋ぐものが「交通」です。本科目では、交通の歴史や人が移動するメカニズムなどの基礎を学び、交通渋滞や公共交通の維持・活性化といった交通に関する課題把握や、大都市、地方都市、観光地での交通計画について学習します。

略歴 早稲田大学大学院修士課程修了、宇都宮大学大学院博士課程修了。博士（工学）。（一財）計量計画研究所研究員、福山市立大学准教授を経て現職。

藤岡麻理子（ふじおか・まりこ）准教授

印象にのこるまち ▶ ベトナム・ホーチミン

卒業旅行で訪れた初めてのアジアの大都市の夜、湧き出るような都市と人々のエネルギーに魅せられ、まさに熱に浮かされたようにほっつき歩きました。低成長下の東京にはない何かに出会ったのだと思います。その後、訪れたどの海外都市も魅力に溢れていましたが、22歳の時のあの感覚は強烈に印象に残っています。

こんな授業を担当 世界遺産論

危機に瀕する世界の文化遺産や自然環境を人類共有の遺産として国際協力により保護するため、世界遺産という仕組みは生まれました。しかし、その保護には、都市開発、観光開発、武力紛争、自然災害といった社会事象と関係する多くの課題が存在しています。本科目では、より良い地域社会・国際社会形成のため、世界遺産の仕組みがどのような意義をもち、どのような貢献ができるのか、そのためにはどのような方策が必要かを考えます。

略歴 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。政策研究大学院大学研究助手、横浜市立大学特任助教等を経て現職。

松本貴文（まつもと・たかふみ）准教授

印象にのこるまち ▶ 熊本県熊本市

長く住んでいたのですが、外に出て改めて「いいまちだな」と実感しました。観光の際には、新町・古町の散策がおすすめです。熊本城や中心市街地、熊本駅からのアクセスも良く、城下町の趣が残る街並みを楽しむことができます。

こんな授業を担当 社会調査法入門

観光まちづくり学部では「地域を見つめ、地域を動かす」というモットーを掲げています。社会調査法入門では、「地域を見つめる」ための方法、特に、地域社会に関するさまざまな情報を収集し、分析するための基礎について学びます。具体的には、調査票調査やインタビュー調査などさまざまな技法について、その特性や実際に実施する方法を学習し、見えない社会を客観的に把握するための基礎知識を身につけます。

略歴 熊本大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。尚絅大学助教、下関市立大学講師、准教授を経て現職。

仲野潤一（なかの・じゅんいち）専任講師

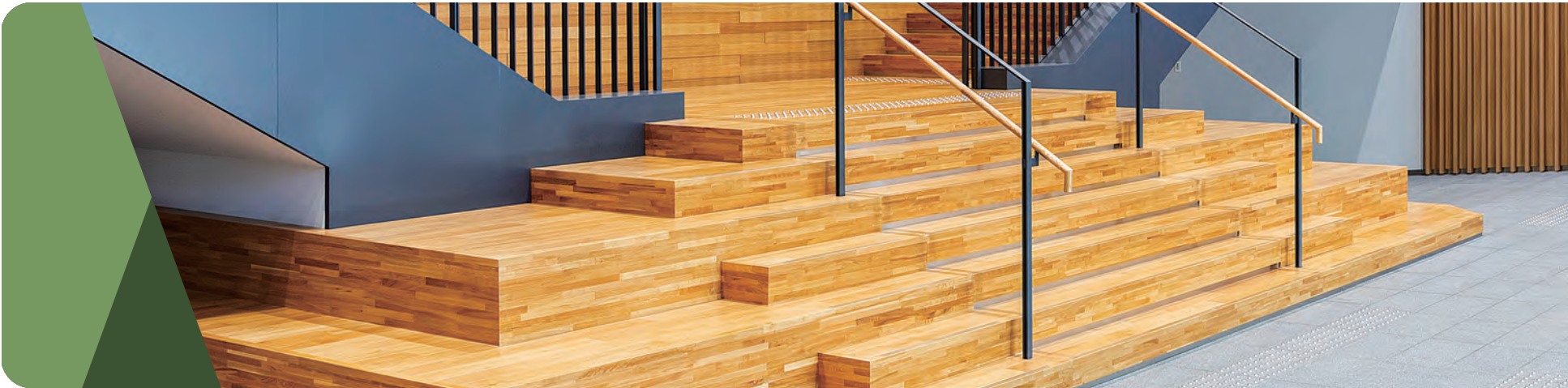
印象にのこるまち ▶ 東京

東京は、まちの代謝が速い一方で、歴史を感じさせるスポットも多く残っており、徒歩や自転車で散策をする際に常に発見があり、時空間的なダイナミズムを感じ、常に知的刺激を受ける都市だからです。ヒューマンスケールがどこまでも続くようで、調べ尽くすことのできない、面白い都市だと思います。

こんな授業を担当 プログラミングと数学基礎

Google Colaboratory上のPythonを用いて、簡単なデータ処理を行えるレベルの実践的なプログラミング技術と、データ解析やパラメータ最適化に必要な数学の基礎（線形代数・微分積分学）について学んでもらい、データを高度に利活用できる技能を身につける手助けをする。

略歴 東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程単位取得退学。(株)マルトラ ソフトウェアエンジニアを経て現職。



西村幸夫（にしむら・ゆきお）教授

印象にのこるまち **ブータン王国**

文化財保護の法律の策定と集落調査の方法の支援のためにここ10年くらい通っています。国内のすべての建物はブータンの様式に沿っている必要があり、すべて5階建て以下です。公務員の公的なスタイルは日本の和服に似たゴと呼ばれるものです。つい50年前まで鎖国していた国なので、奇跡的に文化や伝統が守られています。

こんな授業を担当 **まちづくりと観光**

石山准教授と共同で担当します。本科目は、1年次前期の必修の導入科目です。本学部が目指す観光や交流を通じた持続可能な地域の実現へ向けて、『地域を見つめ、地域を動かす』ための基本的な考え方と複眼的な見方にふれ、私たちがこれからの4年間で学ぶべきことの見取り図を得ていきます。

略歴 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程単位取得退学、工学博士。東京大学教授、神戸芸術工科大学教授を経て現職。

石本東生（いしもと・とうせい）教授

印象にのこるまち **ギリシャ・エーゲ海のサントリーニ島**

エーゲ海のサントリーニ島。そこは今から3500年ほど前に、島中央部に位置した火山が大爆発して陥没、大カルデラ地形が形成されました。そしてその断崖絶壁の上部に、真白の家々が立ち並んでいます。とりわけ夏のシーズンは、紺碧の海と空、そして白い家並みが得も言われぬ美しさ。加えて、歴史遺産も多く興味をそそります。

こんな授業を担当 **世界の観光政策、観光社会学**

観光は運輸・交通や宿泊のみならず、農林水産業、製造業など多様な産業と結びつき、さらに観光地の観光資源は、歴史文化財、博物館、美術館、世界遺産、温泉、自然景勝地、街並み、食、地場産品など多岐にわたります。本授業では、世界の観光立国において、「社会・経済・文化・環境」の観点から持続可能な地域社会を築くため、どのような観光政策を掲げ、実行しているのか、具体的事例をとりあげて解説します。

略歴 アテネ大学大学院人文学研究科博士後期課程修了、Ph.D. ギリシャ政府観光局日本支局、奈良県立大学、静岡文化芸術大学などを経て現職。

梅川智也（うめかわ・ともや）教授

印象にのこるまち **スペイン・サンセバスチャン（バスク地方）**

世界屈指の“美食の街”と言われる人口18万ほどの歴史あるリゾート都市。欧州文化首都が開催された年に行ったのですが、まさに虜になるほど印象に残るまちでした。一口サイズに作られた美味しいピンチョスとやや酸味のあるバスク独特の白ワイン・チャコリの相性は抜群でした。生きていて良かったと幸せを感じさせてくれるまち、それがサンセバスチャンです。そんなまちが日本にもあるといいですね。

こんな授業を担当 **観光地経営論**

観光地を持続的かつ安定的に経営していくためには、観光地全体をマネジメントする「観光地経営」という考え方が重要になります。その要諦となる9つの視点（①状況把握、②戦略策定、③市場創出、④滞在化・平準化、⑤保存・活用、⑥組織・人材、⑦ブランド形成、⑧財源確保、⑨危機管理）について、私が関わった国内外の事例を中心に分かりやすく講義する予定です。

略歴 筑波大学社会学類卒業後、（公財）日本交通公社に入社。全国の観光地づくりに従事。理事・観光政策研究部長を退任後、立教大学観光学部特任教授を経て現職。

楓千里（かえで・ちさと）教授

印象にのこるまち **山形県川西町**

『日本奥地紀行』の著者、イザベラ・バードを顕彰する「アルカディアの塔」が立つ川西町は、作家井上ひさしの生誕の地。町立図書館に併設する「遅筆堂文庫」には井上ひさしの資料・蔵書約22万点を、付箋や書き込みがそのままの状態で所蔵し、いつでも閲覧できます。この個性的な図書館を中心に、旅人を快く迎え入れてくれる町です。

こんな授業を担当 **地域の観光情報メディア**

観光情報メディアとは何かを理解するために、メディアの特性を制作プロセスと共に紹介します。同時に、学生に身近なSNS、オンライン予約サイト、旅行先のサイト、旅行雑誌やガイドブックなどが観光情報メディアとして、どのように活用されているかを調査し検討します。地域において、観光戦略の要である情報発信についてその実態を把握し、課題を抽出し、学生が自ら情報発信の立場になったと想定して、あるべき姿を考察し議論を展開します。

略歴 学習院大学法学部卒業。（株）日本交通公社入社。月刊『るるぶ』副編集長、月刊『旅』編集長。（株）JTBパブリッシング取締役、エグゼクティブ・アドバイザーを経て現職。

小林稔（こばやし・みのる）教授

印象にのこるまち **富山県砺波市**

砺波平野の散居村集落。カイニョと呼ばれる屋敷林、そして、それに包まれたアズマダチと称する様式家屋。一步入ると別世界が…。全体としても個々としても、落ち着きや美しさを感じられます。

こんな授業を担当 **民俗学概論**

私たちの周りには、地域や家によって受け継がれてきたさまざまな慣習があります。こうした、暮らしに根ざした身近な文化に焦点をあて、自らの知見と照らし合わせつつ、人々が培ってきた価値観とその方向性について考えていきます。

略歴 成城大学大学院文学研究科博士課程前期修了。千葉県立博物館、国立歴史民俗博物館、千葉県教育庁文化財課、文化庁文化財第一課（民俗文化財部門）などを経て現職。

椎原晶子（しいはら・あきこ）教授

印象にのこるまち **東京都台東区谷中**

谷中界限は、日本の首都・東京の中にあって、太古からの自然と遺跡、江戸時代以来の寺町の町割りや家並み、人の繋がりが生きるまちです。石屋や畳屋、酒屋などの老舗と町内の活動に重ねて、若い人たちが住み、新しい店やアート活動も生まれます。人が住み合い続けるために必要なことを、さまざまに体験できるのが魅力です。

こんな授業を担当 **アートと地域振興**

アートの思考、アプローチは、地域の価値や課題を発見し、まちに切り込み、異なる立場の人々を繋ぐ力を持っています。地域の文化・コミュニティ・教育・福祉・医療・観光などを横断的に繋ぎ、総合的に地域再生を進めるため、日本国内、海外各地の事例をもとに考察し、地域の課題解決に向けた柔軟な思考と行動力を身につけましょう。アートの考え方とプログラムを体験的に学びます。

略歴 東京芸術大学大学院美術研究科博士課程単位取得退学。同大非常勤講師、山手総合計画研究所、晶地域文化研究所、NPO法人たいとう歴史都市研究会、（株）まちあかり舎などを経て現職。

下村彰男（しもむら・あきお）教授

印象にのこるまち **沖縄県竹富町（竹富島）**

初めて竹富島を訪れた時、時間の経過が全く気にならなかったことを印象深く覚えています。海に囲まれた伸びやかな自然の風景、そして珊瑚の石垣や赤瓦と漆喰の木造民家などがつくる地域性に富んだ街並み、その中で自然体で暮らす人々、それら自然と調和した営み全体の雰囲気

がゆったりと進む「時間」を感じさせたのではないのでしょうか。

こんな授業を担当 **風景計画論**

風景を計画・設計するという観点に立脚し、人を取り巻く視覚像である風景を分析的に把握し、予測、評価する方法について講義します。風景の計画、形成に当たっては、踏まえるべき原則とともに、風景に対する時代の志向や価値観、そして地域ならではの環境との関わり方に対する配慮が必要です。そこで、風景計画の実務を紹介しながら、人々の営みや、地域の自然および社会文化的背景と、実際の風景との関係について考えます。

略歴 東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。博士（農学）。（株）ラック計画研究所所員、東京大学農学部助手、同助教授、同教授を経て現職。

南雲勝志（なぐも・かつし）教授（特別専任）

印象にのこるまち **島根県大田市 温泉津温泉**

世界遺産石見銀山の積出港として栄え、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に指定されている情緒的な街並み、体の芯まで浸みる熱すぎる温泉。そして北前船の寄港地でもあった温泉津港は涙が出るほど美しい。加えて暮らす人々はとても人情味があって、ここで時間を過ごしていると忘れかけていた大切なものを思い出させてくれる魅力的なまちです。

こんな授業を担当 **パブリックデザイン（地域と公共空間）**

地域創生、地域の時代と言われ久しい。しかしながら日本の地方都市はどこに行っても同じような印象を受けることが少なくない。地域固有の資産や魅力を新たに引き出し、伝えるためにデザインという手法は非常に重要です。本授業では具体的な事例を通して全国各地の地域の顔となるような公共空間のデザインが出来るまでの背景やプロセスを学び、地域の固有性を引き立たせるデザインの意味や効果を理解することを目指します。

略歴 東京造形大学造形学部室内建築科卒業。永原浄デザイン研究所を経て昭和62年ナグモデザイン事務所設立、現職に至る。

堀木美告（ほりき・みつぐ）教授

印象にのこるまち **松本盆地・甲府盆地**

私の印象に残る“まち”の第一条件はヒトと自然との付き合い方やその歴史が表れる水辺空間の豊かさです。水辺とあわせて山岳への眺望にも惹かれますが、これは平野部で暮らしてきた影響かもしれません。松本盆地と甲府盆地、どちらも扇状地由来の水辺の環境と美しい山々の眺望に恵まれ、居心地よい“まち”だと思っています。

こんな授業を担当 **保全生態学概論**

保全生態学はさまざまな生物学的階層での生物多様性を扱う学問です。特に個体群、生態系、景観といった階層の多様性は地域の個性に繋がって来訪者の興味を惹き、空間としての心地よさにも影響するなど観光にとっても重要な意味を持ちます。本科目では生物多様性を意識して観光まちづくりに取り組むため、保全生態学の基礎的な考え方を学ぶとともに、観光まちづくりと関連するトピックを取り上げてその問題点や解決の方向性について考えます。

略歴 東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了。（公財）日本交通公社研究員、同主任研究員、淑徳大学准教授を経て現職。

米田誠司（よねだ・せいじ）教授

印象にのこるまち **愛媛県内子町**

人口約1万6千人の内子町は、江戸時代後期から明治時代に木蠟生産で栄え、重伝建地区の八日市・護国地区は町並み保存で面影を今に残します。周辺地域の農村集落では、自然保護、環境、景観などの地域の個性を自認し、住民が自治で取り組む村並み保存や、人と山との関わりや自然との共生を求める山並み保存にも取り組んでいます。

こんな授業を担当 **公共政策概論**

地域をとりまく政策課題や、国や地方自治体における公共政

インフォダイジェスト

 … 在学生
  … 保護者
  … 卒業生
  … 一般
  … 受験生
 内容
  日にち
  時間
  場所
  対象
  申し込み
  料金
  問い合わせ

大学からのお知らせ

学年暦の変更について

因国学院大学は、若木祭開催に伴い学年暦を一部変更します。詳細は次の通りです。

【全日休講】11月1日(月)・2日(火)
※11月4日(木)は創立記念日のため休校

問教務課 (☎03・5466・0135)

令和3年度学費等納付金について

因令和3年度学費等納付金(後期)口座振替日は、11月26日(金)です。詳細は、10月中旬に発送した「学費等納付金に関する通知」や大学HPをご確認ください。

問経理課、学生生活課、たまプラーザ事務課、大学院事務課

「指定寄付金」ご協力のお願い

因学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広く寄付を募っています。寄付の種類は、「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」「教育・研究振興支援」「施設・設備充実支援」の4つに加え、学生の課外活動を支援するための「課外活動支援(スポーツ強化部会など)」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツ活動や課外活動などに熱心に取り組む学生に向けて、HP上からメッセージを直接投稿してもらう仕組み。ワンコイン(500円)から寄付が可能で、メッセージはそのまま専用HPに公開されます(匿名可)。

申専用紙またはインターネットでのクレジットカード決済(VISA、MasterCardの2種類)が可能です。

問総務課 (☎03・5466・0111)

※本法人への指定寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。募金に関する情報は専用HP(QRコード)で閲覧できます



国学院雑誌 学生懸賞論文募集

因国学院雑誌は明治27年に創刊され、国内でも有数の歴史を誇る月刊学術雑誌です。懸賞論文は未発表の学術論文であれば題目は問いません(卒業論文も可)。優れた論文に賞状と副賞(入選5万円、佳作3万円)を贈呈し、国学院雑誌への掲載を予定しています。

因▶第一部門＝本学文学部・神道文化学部・別科在籍者
▶第二部門＝本学大学院文学研究科・専攻科在籍者

申▶第一部門＝令和4年3月31日(木)までに論文原稿(400字詰め原稿用紙換算40～50枚)、800字程度の要旨、英文タイトルのテキストデータに指導教員の推薦書を添付し、文学部資料室国学院雑誌編

博物館

料無料
時原則、水・木・金・土曜日の12時～17時(最終入館16時30分)。短縮開館
※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

企画展「アイヌ・プリ ー北方に息づく先住民族の文化」

因令和元年の「アイヌ新法」成立、2年の国立アイヌ民族博物館開館、そして今年が金田一京助、久保寺逸彦の没後50年となることから、本学博物館が所蔵するアイヌ民族関連資料や、国学院大学北海道短期大学部が所管する金田一記念文庫に収蔵された貴重書などを紹介する。初期のアイヌ文化研究において、後に本学教授となる言語学者の金田一京助が、失われつつあったアイヌ民族の言葉や習俗の記録に取り組みはじめ、金田一の教え子であった久保寺逸彦がアイヌ口承文芸の採集と研究を進めるなど、本学の関係者が大きな役割を果たしてきた。

日11月18日(木)～令和4年1月22日(土)

場企画展示室

キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

企業セミナー

因期間中ほぼ毎日、各業界のリーディングカンパニーの採用担当者が参加し、業界や企業の説明をします。参加する企業は、個別の企業説明会では予約が取れない優良企業ばかりです。自分が何をしたいか決まっていな人は、まず企業の話聞いて興味・関心の幅を広げていきましょう。

※オンラインで実施

日10月11日(月)～11月26日(金)

対1～3年生

第3回WEB合同企業説明会

因秋採用を行う準大手企業・優良中小企業をお招きして開催する「WEB合同企業説明会」です。本学学生を採用する意欲のある企業の人事担当者から詳しい説明を聞き、自分にあった企業をこの機会にぜひ見つけましょう！

※オンラインで実施

日・時11月10日(水)13時～16時10分

対4年生

集係へ提出してください。

▶**第二部門**＝国学院雑誌第122巻(4～12号)、第123巻(1～3号)に掲載された投稿論文の中から授賞します。

問文学部資料室 国学院雑誌編集係
(☎03・5466・4813)

国学院大学経済学会 懸賞論文募集

因経済学部各学科の各コース内容に関するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文には賞金(最優秀賞

イベント

文化講演会「大学で出会う新しい自分 ーアスリートのキャリアデザイン論」

因講師は、ソチ五輪フィギュア日本代表の町田樹・人間開発学部助教。アスリートのセカンドキャリア問題が注目されるようになってから久しいですが、依然として深刻な問題であることに変わりはありません。本講演会では、アスリートが競技引退後に次なるキャリアへとどうまく移行できない原因を浮き彫りにしたうえで、理想的なセカンドキャリアを切り拓くために必要となるキャリアデザインのノウハウについて語ります。

※申込者に限りYouTubeで期間限定配信

日11月1日(月)～令和4年3月31日(木)

申申込フォーム(QRコード)から

新型コロナ関連のお知らせ

対面授業受講上の留意事項

因キャンパス内での感染を防ぐため、次の留意事項に基づいて対面授業を受講してください。

●基本的な留意事項

- ◇継続的に手洗い、咳エチケットの徹底を
- ◇「3密」を避ける取り組みを
- ◇免疫力を高める十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事を

●具体的な留意事項

- ◇毎朝検温をし、「検温表」へ必要事項の記入を
- ◇発熱や咳などの風邪症状がみられる場合、同居する家族、身近な知人に感染が疑われる場合は登校を控え、授業は欠席を
- ◇授業開始時に担当教員から求められた場合、「検温表」への記入を
- ◇大学構内では必ずマスクの着用を
- ◇入退館、入退室時には手指消毒の徹底を
- ◇体温調節ができる服装で来校を
- ◇教室では着席不可の席には座らない

「3密」を避けよう



咳エチケット



感染が疑われたら保健室に連絡を

因新型コロナウイルス感染症と診断された方、疑いがあると言われた方は、必ず保健室にメールか電話で連絡をしてください。

▶保健室アドレス☎hoken@kokugakuin.ac.jp

▶渋谷TEL(平日・土曜10時～17時)

☎03・5466・0148

▶たまプラーザTEL(平日・土曜10時～16時)

☎045・904・7660

5万円、優秀賞3万円、佳作1万円)が贈られます。

因経済学部在学生の個人またはグループ(3人以内)

申12月1日(水)～8日(水)正午の期間に、論文(A4サイズ1ページあたり1200字程度で10枚以上。Word形式。表紙、要旨〈600字以内〉、目次、論文の順で記述すること)と経済学部HP(<https://www.kokugakuin.ac.jp/event/128749>)からダウンロードした提出票・個人情報利用承諾書を応募期間中に公開される投稿先に提出してください。

問経済学部資料室 (☎03・5466・0342)

料無料
問エクステンション事業課
(☎03・5466・0270)

文化発信型英語力開発活動イベント 「鹿鳴家英楽の英語落語セミナー」

因日本が誇る伝統話芸「落語」は、外国語学習にも効果的です。あなたも高座に上がって、ちょっとした小話を英語で演じてみませんか。英語落語を聞いてみたい人、日本を英語で紹介することに興味のある人、英語を実際に使ってみたい人、どなたでもご参加ください。

日・時11月27日(土)17時～18時30分

場渋谷キャンパス総合学修館(6号館)6B12教室

※Zoomによる同時配信も

申不要

問文学部資料室



令和3年度 ホームカミングデー

電波でつながれ、院友の思い出

院友と大学をつなぐホームカミングデー

今年もオンラインによるライブ配信(予定)で開催!

開催日

- ①11月27日(土)
- ②令和4年1月22日(土)
- ③令和4年3月12日(土)

詳細は今後ホームページ(QRコード)でお知らせ

国学院大学校友課

〒150-8440 東京都渋谷区4-10-28

☎03(5466)0131 ☒hcd@kokugakuin.ac.jp



弁論部 全国から学生弁士集う

全国の学生弁士が集まり、国学院大学弁論部が主催した第2回「国学院大学学長杯争奪全国学生弁論大会」が10月9日、渋谷キャンパスで行われ6大学から8人の弁士が出場した。

開会式中中條豊同部顧問は「熱のこもった弁論と質疑応答で知的交流の場となることを願う」とあいさつ。本学からは岩崎航大弁士（法4）が出場し、「ニッポンのエネルギー戦略」と題し弁論した＝写真。岩崎さんは「脱炭素社会に向けた水素エネルギー利用で日本は最先端技術を持つが、利活用は遅れている。国は新技術の開発支援に加え、東アジアで水素利活用による経済圏を創設し、日本の製品やサービスで国際的な供給連鎖を主導すべきだ」と述べた。各弁士の発表後は、活発な質疑応答で活気を呈した。優勝は中央大学辞達学会の新谷美華さんで、岩崎さんは3位を獲得した。



団体・個人の成績

剣道部＝第70回関東学生剣道優勝大会が9月19日、とどろきアリーナ（川崎市中原区）で行われ、1回戦シードの同部は、2回戦で清和大学と対戦。両校ともに2勝2敗3分けで代表戦までもつれたが接戦を落とし敗退した。

第47回関東女子学生剣道優勝大会が9月23日、東京武道館（東京都足立区）で行われ、同部は2回戦で敗退した。日本女子学生剣道選手権大会の出場権をかけた出場校決定戦では、3回戦で東海大学に3勝1敗で敗れ、全国大会出場を逃した。

蹴球部＝東京都大学サッカーリーグ戦1部リーグに所属する同部は、延期となった試合を除き、26節中25節が終了した10月10日時点で13勝4敗4分け・勝ち点43、13チーム中3位となっている。

バスケットボール部＝第97回関東大学バスケットボールリーグ戦3部が9月14日に開幕。延期となった試合を除き、11節中8節が終了した10月10日時点で3勝3敗で、12チーム中8位となっている。

第71回関東大学女子バスケットボールリーグ戦2部Bブロックが9月25日に開幕。7節中3節が終了した10月10日時点で2勝1敗・勝ち点5、8チーム中3位となっている。ラグビーフットボール部＝関東大学ラグビーリーグ戦Ⅱ部が9月に開幕。19日に行われた白鷗大学との第1節は、前半にリードを許すも31－24と逆転勝ち。7節中3節が終了した10月10日時点で1勝2敗となっている。

強化部会の主なスケジュール

柔道部＝全日本学生柔道優勝大会（男子70回 女子30回）（11月13日(土)～14日(日)・千葉ポートアリーナ（千葉市中央区））、全日本学生柔道体重別選手権大会（男子40回 女子37回）（11月25日(木)～26日(金)・同）陸上競技部＝秩父宮賜杯 第53回全日本大学駅伝対校選手権大会（11月7日(日) 8時5分・熱田神宮西門前（名古屋市熱田区）～伊勢神宮内宮宇治橋前（三重県伊勢市））卓球部＝全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）（10月28日(木)～31日(日)・所沢市民体育館（埼玉県所沢市））

硬式野球部

混戦の東都 連覇へ一丸

熱戦が続く東都大学野球秋季1部リーグ。6校による2試合ずつの総当たりで進むリーグ戦は10月14日、第4週までを終えた。国学院大学硬式野球部は4勝2敗で首位に立っている。亜細亜大学が2位、3位には3校がひしめく大混戦のままリーグは終盤に入る。

第1週の日本大学、第2週の青山学院大学との連戦をそれぞれ1勝1敗とした硬式野球部は、9月27日、10月4日に駒沢大学と対戦。1回戦は、駒沢大学のエース・福山優希投手（3）から五回までに5点を挙げて攻略すると、先発の坂口翔颯投手（経営1）が8回1失点の好投で9－1と快勝した。

2回戦は、五回に2点を失った一方、打線は2連投の福山投手の前に再三走者を出すものの得点を挙げられず。迎えた九回裏の攻撃、福永奨主将（健体4）の左翼線への安打をきっかけに、走者をためると、一死一、二塁から7番・伊東光亮選手（経1）の適時打で1点差。続く代打・青木寿修選手（経ネ3）が左中間に2点サヨナラ二塁打を放ち劇的な逆転勝利を収めた。

開幕から中堅手として先発し続けていた青木選手。この試合は先発を外れ、悔しさをバネに殊勲打を放った。試合後、青木選手は「終盤にチャンスで出番が回ってくると思っていた。チームのためにと打った」と振り返った。



逆転サヨナラとなる適時二塁打を放った青木選手

硬式野球部

福永主将 オリックスが指名
川村選手は育成で西武



プロ指名を受けた福永主将（右）と育成指名を受けた川村選手

プロ野球ドラフト会議が10月11日、東京都内のホテルで行われ、国学院大学硬式野球部の福永奨主将（健体4、捕手）がオリックスバファローズから3位で指名を受けた。福永主将は指名確定後、たまプラザキャンパスでオンラインによる記者会見に臨み、「自分の武器は正確なスローイング、勝負強い打撃なのでプロの世界で見てもらいたい。オリックスには好投手が多い。ボールを受けるレベルになれるよう頑張りたい」と抱負を述べた。鳥山泰孝監督は「強い肩、安定した守備力に加えて打撃も力をつけてきた。打てる捕手としてチームの力になってくれたら」と期待を込めた。

オリックスは、院友の横山楓投手（平31卒・128期健体、セガサミー）を6位で指名。福永主将との「院友バッテリー」の誕生にも期待だ。

育成選手ドラフトでは、川村啓真選手（経4、外野手）が育成4位で西武ライオンズから指名を受け

た。川村選手はオンライン会見で「ほっとした」と一言。「持ち味の打撃を磨きたい」と意気込みを語った。

本学硬式野球部員のプロ指名は2年連続。捕手の指名はヤクルトスワローズに所属する嶋基宏選手（平19卒・115期史）以来15年ぶり。川村選手は元楽天の聖澤諒さん（平20卒・116期経ネ）以来となる外野手としての支配下登録を目指す。

福永主将は横浜高（神奈川県）から本学へ進学し、1年春から東都大学野球リーグ戦に出場。昨春秋にチームの主将に就任すると、今春は11年ぶりのリーグ優勝に大きく貢献するなど学生屈指の強肩強打の捕手に成長してきた。

川村選手は日本文理高（新潟県）から本学に進学。1年春の東都リーグで新人賞を獲得。今春は強打の2番打者としてチームを牽引し、首位打者と外野手としてベストナインを獲得していた。

K:DNA——創立139年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

駅伝シーズン開幕 2年ぶりの出雲駅伝 収穫と課題の4位



出雲大社前のスタートを飛び出す島崎慎愛選手(前列中央)ら1区の選手たち(月刊陸上競技提供)

今年の大学駅伝シーズン開幕戦となる第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走が10月10日、島根県出雲市の出雲大社前から出雲ドーム前までの6区間45.1kmのコースで行われ、全国20校が出場した。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となり2年ぶりの開催。一昨年の大会で初優勝を飾った国学院大学陸上競技部は、2年ぶりの出雲路に連覇をかけた。

レースは気温30度を超える季節外れの猛暑の中、正午過ぎにスタート。1区・島崎慎愛選手(経営4)は先頭集団でレースを進め、6位で2区・木付琳主将(経4)に襷を繋ぐ。最短の5.8kmで争う2区で木付主将は、残り約1kmで一気に先頭に立つと区間賞となる快走で、そのまま後続を振り切り中継所に駆け込んだ。

3区で初出場の東京国際大学が独走態勢に入ると、本学をはじめ強豪校は熾烈な2位争いを展開。一時は7位まで順位を下げた本学は、4区・中西大翔選手(健体3)、5区・伊地知賢造選手(健体2)がそれぞれ区間2位の好走で順位を上げ、3位で6区・平林清澄選手(経営1)に襷を繋いだ。

2位と14秒差で襷を受けた平林選手は、一時は東洋大学を抜き2位に躍り出たが、ゴール目前で追い上げる青山学院大学、東洋大学にかわされ4位でゴールテープを切った。

試合後、前田康弘監督は「30度を超える暑い中、6人の選手はいい継走をしてくれた。目標だった3位に届かなかったが、青山学院大学、東洋大学に続いて上位校の常連として定着するよう流れに乗っていききたい。全日本大学駅伝まで時間がないが、課題も見えたのでいい準備をしていきたい」と語った。

区間賞を獲得した木付主将はレース直後のインタビューで「スタート前から区間賞とトップ通過はイメージがあった。想定通りの走りができた」と手ごたえを口にしていた。三大駅伝の第2戦となる全日本大学駅伝は11月7日、熱田神宮西門前(名古屋市熱田区)から伊勢神宮内宮宇治橋前(三重県伊勢市)までの8区間、106.8kmで争われる。

個人成績						総合順位(上位8校)		
区間	氏名	所属	タイム	区間順位	総合順位	順位	大学名	総合成績
1	島崎 慎愛	経営4	23分49秒	6位	6位	1	東京国際大	2:12:10
2	木付 琳	経4	16分16秒	1位 (区間賞)	1位	2	青山学院大	2:14:07
3	藤木 宏太	神文4	25分29秒	10位	7位	3	東洋大	2:14:13
4	中西 大翔	健体3	18分42秒	2位	4位	4	国学院大	2:14:17
5	伊地知賢造	健体2	19分15秒	2位	3位	5	駒沢大	2:14:53
6	平林 清澄	経営1	30分46秒	5位	4位	6	早稲田大	2:15:00
						7	創価大	2:15:37
						8	帝京大	2:16:24
								以下略



情報をお寄せください

「部員の人数が足りず、団体戦に参加できない」「人数がそろわなくて演奏ができない」など少人数で困難を抱えながら活動が続ける大学公認部会の情報をお寄せください。今後不定期連載で紹介していきます(紙面の都合などにより紹介できない場合があります)。

【問】広報課(☐kouho@kokugakuin.ac.jp)

相撲部

「つぶれかけ」土俵際からの巻き返し



(相撲部提供)

相撲部

相撲同好会として活動を続け、平成27年に相撲部に。全国学生相撲選手権大会などの出場を目指す。練習は、東京大学相撲部と月曜、水曜、土曜に同大駒場キャンパスで行う。部のOBで名誉主将の加藤琢磨さんは荒剛丸(式秀部屋)として大相撲序二段で奮闘中。部員だけでなくマネージャーも募集中。

▶Twitter: @kokugakuin_sumo

相撲と聞けば、多くの人が巨漢の力士がぶつかり合う姿を思い浮かべる。「つぶれかけ」と遠藤浩平主将(法3)が話す国学院大学相撲部は、そうした姿とは少し違うようだ。

所属部員3人のうち2人は体重60kg台の「小兵力士」。高校時代はラグビーに打ち込んでいた遠藤主将は、大柄の選手をなぎ倒すタックルが得意だった。大学入学後、体格差のある相手を倒す快感に魅力を感じて相撲部に飛び込んだ。この春入部した1年生も、体重60kg台の軽量級だ。

「つぶれかけ」の理由は部員が少ないだけではない。遠藤主将と「同期入門」の3年生が、ケガで長期離脱中なのだ。「団体戦は選手が3人集まらないと出場できない。キックボクシング部に所属する友人に助っ人を頼むが、スケジュールが合わなければ、11月の全国大会に出られないかも」。

練習環境も恵まれてはいない。学内に土俵がないため、練習は東京大学の駒場キャンパスに出向いて、同大相撲部との合同練習を続けている。

学生相撲の大会は、ほとんどが体重無差別。大柄な相手に立ち向かうのは怖くないのだろうか。「入部当時の稽古は、100kg近い体重がある東大生にコテンパンにやられていた。今は五分五分で勝てるようになった」と遠藤主将は自信を見せる。

部の目標は所属するCリーグからBリーグへの昇格。一番の課題は新入部員の発掘だ。「Cリーグに所属する他大学を見ても初心者が多い。柔道などのスポーツ経験者もいるが未経験者も大歓迎」と遠藤主将。学生相撲は「練習次第で体格差を超えられる」と勝負師の顔を見せた。

自前の土俵もなく、部員も少ない国学院大学相撲部。土俵際からの逆襲はこれからだ。